

「モヒカンポシエット 世界でたったひとつをつくる」展報告書

期日：2020年7月11日（土）—8月30日（日）44日間

時間：10:00–20:00、火曜休館

場所：熊本市現代美術館ギャラリーⅢ

事業内容報告：

「モヒカンポシエット 世界でたったひとつをつくる」展は、熊本市新町の築100年の町屋にアトリエを構えるデザイナー、モヒカンポシエット（櫻井貴容子）による、オールハンドメイドの女性用1点物コスチュームを紹介する内容であった。

会場内に一歩足を踏み入れると、モヒカンポシエットがこれまで制作してきた約2000点の作品写真が、劇場のカーテンのように展示され、来場者を取り囲む。会場中央には、今回のための新作オブジェ「作られた破壊から生まれたドレス」が約3メートルの高さに展示。その周辺には、影絵が設置され、幻想的な雰囲気を作り出した。

その他、直近のコレクションを代表するドレスや、残り布を生かして作ったオブジェなど、ドレスを「商品」でなく、たった一つの「作品」と呼び、アートと服飾デザインの垣根を越えて活躍するモヒカンポシエットの世界観を体現するような内容となった。

また、会場内に、新町のアトリエを再現し、会期中の火曜・金曜以外は、実際にモヒカンポシエットがコスチュームを作成。7月29日–8月11日まで、「美術館で作った作品を百貨店で売る」をコンセプトとした展示販売会「Made in Museum」を鶴屋百貨店東館1階で行った。

会期中、8月2日、9日、16日には、現代美術館内で「モヒカンポシエットの服を作ろう」と題した、実際にブランドで使用する生地を使い、1日でトップスを完成させるワークショップを行った。参加者は慣れない業務用ミシンに悪戦苦闘しながらも、型紙を使わずトルソに着せ付けながら仕上げていくモヒカンポシエットならではの制作方法を学び、既製服とは一味違うオリジナリティあふれる作品を仕上げていった。

会期最終日の8月30日には、RKK「新・窓をあけて九州」で、約半年間、活動に密着した内容が放送され、放映を見た来場者や問い合わせが多数あるなど、大きな反響を呼んだ。

現在、モヒカンポシエットは今回の展覧会の経験を生かし、関西・東京の百貨店での展示販売の合間に、広島市現代美術館の公募展への準備を進めている。熊本にしながら、全国、そして世界を目指して、モヒカンポシエットは努力を続けており、今後ともその活躍が期待される。

G3 『モヒカンボシセット』展：決算

収 入		支 出	
内 容	金 額	内 容	金 額
助成金収入（熊本放送文化振興財団）	100,000	広報チラシ等発送費	40,841
現代美術館指定管理料（自己負担）	108,934	展示・イベント用消耗品購入費	50,093
		広報用A4チラシデザイン・印刷経費	80,300
		広報用B2ポスター印刷経費	7,700
		講演・ワークショップ謝礼	30,000
収入合計	208,934	支出合計	208,934



会場内



滞在制作した会場内アトリエ



鶴屋での展示販売会



ワークショップ



MAKE ONLY ONE IN THE WORLD.

モヒカンポシェット

世界でたったひとつをつくる展

2020

7.11 – 8.30
sat sun

熊本市現代美術館 ギャラリーⅢ

OPEN 10:00-20:00(火曜休)

入場無料

※熊本市現代美術館ギャラリーⅢは熊本・九州ゆかりのアーティストを応援するスペースです。

TEL.096-278-7500 〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3

—— 入館に際してご協力をお願い ——

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、手洗い励行、手指の消毒などにご協力ください。
- 熊本市の感染リスク警戒区分に応じて、入館時に検温とチェックシートの記入(氏名・電話番号)をお願いしています。

Make only one in the world.

世界で たったひとつを つくる展



～作られた破壊から生まれたドレス～

熊本市現代美術館ギャラリーⅢでは、135回目の企画として「モヒカンポシェット 世界でたったひとつをつくる」展を開催します。

モヒカンポシェットとは、デザイナーの櫻井貴容子と櫻井栄一による服飾メゾンです。独学で服飾を学んだ櫻井らは、2007年、熊本市新町の築100年の町屋を改装し、同メゾンをスタートさせました。それ以降、バッグやコサージュなどの小物をはじめとして、セミオーダー、また、近年は、海外買い付けの生地をベースにしたオールハンドメイド、1点ものの女性用コスチュームの制作を続け、大手百貨店での展示会を通して、全国に根強いファンを生んでいます。

「貴女がくれた未来だから 貴女の為に作りたいたんだ」と語るモヒカンポシェットは、様々なアートに刺激やインスピレーションを受けながら、世界各地の厳選した生地から、イマジネーション豊かに女性のための服を生み出しています。

自分が好きなものに正直に生きたい。そんな、女性たちの心を解放し、新たな世界に一步をふみだすための「たったひとつの服」を生み出すべく、モヒカンポシェットは今日も針を進めています。

【作家略歴】

モヒカンポシェット
櫻井貴容子 / デザイナー

1978年、熊本市生まれ。理学療法士として働きながら、1999年頃より独学でポシェットを作り始める。2006年、熊本ファッション協会主催「クリエイターズ・ウェーブ2006」グランプリ受賞。パリ留学を経て、2007年、熊本市新町に「モヒカンポシェット」を開店し独立。ポシェットやバッグ、コサージュなどの小物から、オールハンドメイドによるコスチュームデザインへと創作の幅を広げる。その間、NPO法人「アートスイッチ」としての表現活動を多数行う。現在、年1-2回、パリを中心に生地買い付けを行い、国内各地の百貨店で、完全1点もののオリジナルデザインによる、コスチュームの展示販売を行っている。2019年、第11回香梅アートアワード奨励賞受賞。



mohikanpochette.com

会期中、会場でモヒカンポシェットが公開制作を行います



会期中のイベント

モヒカンポシェットの 服をつくろう **定員 | 15名(要予約)**

モヒカンポシェットと一緒に実際に使用している布地とボディを使ったトップスを作るワークショップを行います。

【日時】2020/8/2・9・16(日)10:00-17:00

【費用】20000円

【場所】熊本市現代美術館

【講師】櫻井貴容子(モヒカンポシェット)

※各日5名。
1日で仕上げまで
行います。

お申し込み・お問い合わせ

熊本市現代美術館 096-278-7500

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示及びイベント等の内容を変更する場合があります。

作品を前にする櫻井貴容子さん。会場には手掛けた衣装のほか、コロナ禍に着想を得た巨大オブジェ（右奥）などが並ぶ＝熊本市中央区



8/15 熊本

「たった一つ」にこだわりの

コスチュームデザイナー 櫻井 貴容子さん（熊本市）

「モヒカンポシエット」のブランド名で、一点ものの女性用コスチュームを制作するデザイナー櫻井貴容子さん（41）熊本市の個展が、同市現代美術館（中央区）で開かれている。海外での生地買い付けから縫製まで一貫して一人で手掛け、フ

アッション感覚の鋭い女性たちから支持を得ている。

約20年前、「持ちたいバッグがない」とポシエットを作ったことが今につながる。前職は理学療法士。骨格、筋肉、動作。誰一人体は同じではないのに、みんな大量生産の

服に覆われている」という違和感から「たった一つ」にこだわり、独学で服飾デザインを始めた。

パリ留学を経て、2007年に夫栄一さん（45）と同市でオリジナルブランドを設立。これまで手掛けた作品は2千着以上に上り、会場ではその一

部を実物や画像で紹介している。

型紙は使わず、トルソ（胴体の像）に布を当てながら制作を進める。アート作品に刺激を受け、インスピレーションを頼りに生み出された作品は曲線的なシルエツトや、華やかで装飾性の高いデザインが印象深い。

「誰かに着てもらうことで、さらに生き生きと見える瞬間がある」11年に旧県民百貨店で展示会を開いて以来、毎

年東京や大阪などのデパートで複数回開催。昨年は第11回香梅アートアワードで奨励賞も受賞した。自身の名が知られることで「顧客のもとに旅だった服の価値をもっと上げたい」。食欲なマイナンドは、いつかパリの美術館で作品展を開くことも思い描いている。

（魚住有佳）

※櫻井さんは30日までの会期中、火・金曜を除き会場で公開制作をしている。